

第5回三次市総合計画審議会 会議録

日 時	令和5年11月24日（金） 13時30分～16時20分
場 所	三次市役所本館6階 602・603会議室
議 事	(1) 第3次三次市総合計画（素案）について
委 員 等	<p><出席委員></p> <p>有重 由紀子／三次市PTA連合会 代表 池上 裕章／三次市住民自治組織連合会 会長 岡田 美津子／三次市女性連合会 会長 【職務代理者】佐藤 明寛／三次商工会議所 会頭 中井 沙耶香／三次市保育所保護者会連合会 副会長 長尾 香織／NPO法人みわスポーツクラブ 理事 西田井 恭子／三次市防災士ネットワーク 副会長 林 昭三／三次広域商工会 会長 前田 茂／三次市文化連盟 会長 財団法人三次市教育振興会 会長 政森 進／一般社団法人三次観光推進機構 理事長 森信 志津夫／三次市身体障害者協会 副会長 北木 清治／国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所 所長 【会長】伊藤 敏安／広島修道大学 国際コミュニティ学部 教授 田中 貴宏／広島大学大学院先進理工系科学研究科 教授 西本 寮子／県立広島大学地域創生学部地域創生学科 教授 神岡 百合美／EGG(草の根国際交流会) 代表 水田 史人／三次金融協議会 幹事 榎原 祐美／Lupine(カッペマ編集事務所) 代表・アシスタントlab. 会員 道原 愛二郎／まちづくりワークショップ会長(ひとづくり) 安信 祐治／まちづくりワークショップ会長(くらしづくり) 橋本 葵／まちづくりワークショップ会長(仕事づくり)</p> <p><欠席委員></p> <p>岩本 智建／ひろしま農業協同組合三次地域本部常務理事 浦田 愛／県北地域環境活動推進協議会 特定非営利活動法人ほしはら山のがっこう 副理事長 落合 裕子／三次市社会福祉協議会 監事 河野 由美子／広島県北部厚生環境事務所・保健所 保健課 課長 住本 惟光／三次市官民共創コンソーシアム DXコーディネーター 山口 大輔／連合広島備北地域協議会 副議長 前田 奈美／備北ひばり法律事務所 弁護士 福永 丈也／まちづくりワークショップ会長(環境づくり) 藤井 皇治郎／まちづくりワークショップ副会長(しくみづくり)</p> <p><事務局></p> <p>細美 健／三次市 副市長 笹岡 潔史／三次市経営企画部 部長 渡部 真二／三次市経営企画部企画調整課 課長 加藤 泰／三次市経営企画部企画調整課 係長 森岡 弘樹／三次市経営企画部企画調整課 豊永 美由紀／ 同 上</p>

《公開用》

(事務局)

開会に先立ち、ひと言お願いをさせていただきます。本日、本審議会を傍聴したいとの依頼がありますので、委員の皆様におはかりしたいと思います。

本審議会は、会議の公開について特段の定めはございませんが、傍聴されることについて、ご異議はありませんでしょうか。

(各委員了承)

ご異議なしとのことですので、本審議会を傍聴されることについて、ご了解をいただいたものとしします。また、本審議会のご意見を記録するため、音声の録音をさせていただくこと、記録につきましては、後ほどホームページの方に公開させていただくことをご了解いただきたいと思います。

1 開会

(事務局)

ただいまから、第5回三次市総合計画審議会を開催します。

本日は、ご多忙のところ、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

それでは、開会にあたりまして、伊藤会長からごあいさつをお願いします。

2 会長あいさつ

(会長)

皆様、こんにちは。本日は、これまでの議論を踏まえ、計画の素案が告示されています。今後、この計画は、議会へ報告され、市民の方を対象にパブリック・コメントをされる予定です。本日も、熱心にご議論いただければと思います。

(事務局)

議事に入る前に、本日の配布資料の確認をさせていただきます。お手元にお配りしています資料は、会議次第と資料1～3です。

本日は、資料3「第3次三次市総合計画（素案）」を中心にご審議いただければと思います。

只今の出席議員は、19人です。定足数に達していますので、これより議事に入らせていただきます。進行を伊藤会長をお願いします。

3 議事

(1) 第3次三次市総合計画（素案）について

(会長)

最初に、審議会運営規則第10条第3項の規定により本日の会議録署名委員を指名させていただきます。今回は、神岡委員と水田委員をお願いします。

本日は、資料3を中心に議論いただきたいということですので、最初に事務局から資料の説明をお願いします。

(事務局)

<事務局説明（略）>

(会長)

資料が多いので、議論を2つに分けて進めていきたいと思っています。

前半の議論としまして、最初に、資料3の第1章から第3章について、計画の総論的な部分を

《公開用》

議論します。その後、後半の議論として、各論である第4章について、**資料1**で前回からの変更点、修正点が反映されているかどうか議論したいと思います。

それでは、第1章から第3章について、特に「まちづくりの基本的方向」を中心に、今までの議論が反映されているかどうか、ご意見をいただければと思います。

まず、1点、文章中に「三次市」と記載されているところと「三次」と記載されているところがあります。うまく切り分けられているようで、必ずしもそうでないところがありますので、整理していただければと思います。例えば、12ページ、本文の1行目「第3次三次市総合計画」とありますが、これは固有名詞なのでこのままでいいと思います。「“ツナガリ人口”」の図では、「三次の活力」という表記になっています。これは、総称的な表現で市を付けるよりも馴染みがあると思います。一番下から2行目「三次の未来を拓く」という表現もこのままでいいと思います。13ページ目の2行目「三次市の魅力を発掘」と表記されていますが、これは「三次市」よりも総称的な「三次」の方がいいと思います。公的な表現と皆さんに受け入れられる幅広い表現を整理していただければと思います。

もう1点、3ページに図があります。「第3次三次市総合計画」の構成として、「基本構想」「基本計画」という表記ですが、前のページに「具体的な主要事業を示す実施計画を策定」という表現が出てきます。この図においても、「基本構想」「基本計画」の下に「実施計画」を表記し、「人口ビジョン」「総合戦略」と一体的に進めていくという図を示してもいいのではないかと思いますので、ご検討いただければと思います。

10ページの「めざすまちの姿」で、「未来につなぐ、人と想いがつながるまち」とあります。今までも議論されたので、これはいいと思うのですが、「未来につなぐ」という言葉は、「人と想い」にかかるのか、「まち」にかかるのか混乱します。一瞬考えさせるという点では、意味があるかと思うのですが、もし「未来につなぐ」が「まち」にかかるのであれば、「人と想いがつながり、未来につながるまち」と表現を入れ替えるとすっきりするように思いました。

(事務局)

本日欠席の委員からご意見をいただいています。

「4ページの基本的な視点に「(2)わかりやすく親しみのある計画」とあるので、計画全体を通じて、横文字やカタカナなどわかりにくい言葉に注釈を加えてもらいたい」というご意見と、「14、15ページの「5 まちづくりの取組の柱」で、構成がわかりやすく表現されていて良いと思う」というご意見をいただいています。

(会長)

わかりやすい計画づくりとして、特に若い方から見て、わかりやすい、馴染みやすい視点からもご意見等をいただければと思います。

(委員)

「第2章 社会経済潮流の変化と将来人口の考え方」のところで「(2)人口減少・少子高齢化の進行」とありますが、ここでは昭和60年からのデータが載っています。昭和60年から現在までの少子高齢化の分析等をされていると思いますが、要因を整理いただいて、改善部分を明らかにできるところはしていただいた方がいいと思います。具体的な対策をどう考えていくのか、まとめていただければと思います。

(会長)

これは総合計画で、個別分野の人口や計画の総まとめという役割を担っていますので、深く記

《公開用》

載するには制約があるかと思えます。事務局の方から何かありますでしょうか。

(事務局)

人口の考え方につきましては、「人口ビジョン」という計画があり、その中で整理しています。今後、令和2年の国勢調査を反映した内容に整理していきたいと思っています。人口減少の要因について書き加えた方がいいというご意見かと思えますので、検討させていただきます。

(委員)

少子高齢化だけではなく、世帯構成で言うと、65歳以上の高齢者では、独居が16%、2人世帯が15%を占めているというデータがあります。今後は、年齢だけでなく、住み方も重要になってくるのではないかと思います。

(委員)

10ページの「未来につなぐ、人と想いがつながるまち」の「未来につなぐ」という部分は、どこにかかるのかわかりにくいように思います。11ページの上から3行目に「住み慣れた地域で住み続けられる持続可能なまちづくり」の「持続可能な」は「まちづくり」にかかっていますし、一番下には、「夢と希望が叶えられるまちにつなげます」と記載がありますので、そういった表現からみると「人と想いがつながり、未来につながるまち」とする方がわかりやすいと思います。

10ページの「めざすまちの姿」の1行目に、「ワークショップなどでいただいたご意見」とありますが、「ワークショップなどを通じて寄せられたご意見」という表現の方がいいのではないかと思います。「いただく」という言葉の語感がどうかと思いました。

(会長)

おっしゃる通り、総合計画ですので、「寄せられた」「提示された」という表現の方がよろしいかと思います。「めざすまちの姿」の「人と想いがつながり、未来につながるまち」という代替案について、原案でいいというご意見や、入れ替えた方がわかりやすいといったご意見がありましたらお願いします。

(委員)

資料を読んで、全体的にはすごくよくできていると思いました。しかし、皆様のお話を聞いていると、もう少し組み直した方がいいのではないかと思います。

(委員)

15ページの「取組の体系」を図示されていて、施策や共通基盤の縦軸・横軸の一番下に「デジタル田園都市構想総合戦略」が表記されています。第5章では、4つの基本目標を掲げられていますが、6つの政策と色分けがリンクしていないので、どう関わっているのか混乱しました。15ページに「デジタル田園都市構想総合戦略」という表現を入れるのであれば、4つの基本目標の記載があってもいいと思います。

(会長)

総合計画が「主」で、「デジタル田園都市構想総合戦略」が「従」とは言わないまでも、国に対応して作らないといけないという状況もあります。15ページで強調しなくてもいいのではないかと個人的には思います。

《公開用》

(事務局)

「デジタル田園都市構想総合戦略」と一体化した計画ですので、戦略の柱である基本目標の表記については、検討させていただきます。

(委員)

「デジタル田園都市構想総合戦略」という表現が、入ることによってわかりやすい計画と相反するかと思います。関係性をもう少しわかりやすく書いた方がいいと思いました。

(委員)

わかりやすい計画という視点で言うと、14・15ページの政策の色で、「子どもの未来応援」の色を揃えた方がいいかと思います。

(委員)

10ページの「めざすまちの姿」の「未来につなぐ、人と想いがつながるまち」について、「未来につなぐ」という表現は、いろいろな施策を展開して、未来につなげていくという意味だと思うので、理解できます。「人と想いがつながるまち」の表現については、「想いがつながる」部分をどのように解釈していいかわからないので、市民の方が読んでもわかりやすいように、「めざすまちの姿に込めた思い」のところに書いていただきたいと思います。

(会長)

ご指摘のように、10ページの理想の「想」と11ページの「思」は字が違いますので、わかりやすく説明する必要があると思います。

ここで一旦、前半の第1章から第3章の議論を終了し、後半の議論である第4章についてご意見をいただければと思います。先ほど、事務局から説明がありましたが、前回、前々回で議論いただいたことを反映してまとめられたということですので、ご指摘が反映されているかどうか、他に追加すべき点はないかどうかといった視点から議論いただければと思います。

(委員)

66・67ページの「観光」分野のところですが、三次DMOとしては、特に観光消費額と宿泊者数のアップに全力を挙げて取り組んでいるところです。三次DMOとしても、向こう10年の計画を立てる中で、この総合計画に掲げている観光消費額と宿泊者数の目標値を揃えさせてもらっています。観光消費額は、現状値62億7千800万円を100億円に、宿泊者数は現状値15万5千人を20万人に設定し、全力を挙げて頑張りたいと思います。

(委員)

14・30・31ページに記載されている「自然環境」のめざす姿について、「環境に配慮された」と表現されていますが「配慮」でいいのでしょうか。KPIを見ると「保全」といった積極的なアウトプットの表現になっています。めざす姿では「配慮」に弱まっているように思います。「豊かな自然と共生するとともに、自然環境を保全した」というような文章にしてはいかがでしょうか。

(事務局)

本日欠席の委員から30・31ページの「自然環境」分野でご意見をいただいています。

1つ目「30ページの目標指標に「温室効果ガス排出量」とありますが、現状値がどの程度かわ

《公開用》

かりにくく、県内比、全国比など比較対象があると親切ではないか」というご意見です。前回の審議会で他の委員からもいただいたご意見かと思いますが、今後、総合計画の冊子や概要版などを作る際に、そのような点に配慮してわかりやすく表現していければと思っています。

2点目「31ページの施策2の主な取組のところが具体性に欠けている。他の市町では早くから設備、仕組みを導入して運営しているところもある」というご意見です。これにつきましては、具体的な取組・事業で検討し取り組んでいきたいと思っています。

3点目「施策2のKPI「ごみの資源化率」の現状値、中間値、目標値が少し低調に見える」というご意見をいただいています。「ごみの資源化率」については、全国的な算出方法で、ごみの絶対量から資源化にまわしているごみの量の割合で算出しています。10年間で2%しか上がらない目標値となっていますが、現状、三次市から1年間で出ているごみの量からすると1%、2%上げていくことも厳しい状況です。ごみの全体量を減らさなければ資源化率が上がらないかと思いますが、この目標値は決して低いものではないということでご理解いただければと思います。

(委員)

26ページの「多文化・共生」について、資料2-1には「審議会でのご意見を踏まえて施策の構成などを変えました」と書いてあります。「男女が互いに」「女性ということが強調されている」「女性、男性という言葉が引かかる」「男女共同参画は何十年も使われている言葉で、変えていってもいいのではないか」というような意見が出ているのですが、男女共同参画社会の状況は、20年たった今も状況は変わっておらず、世界的な日本の順位も低く、男性と女性の壁はまだまだあると思います。男女共同参画は重要であるという視点は忘れないでいただきたいと思っています。国は継続して取組を推進していくということなので、資料2の中に記載のあるご意見を踏まえての修正ではないことを願っています。

(事務局)

この施策の見直しは、審議会でのご意見も考慮した上で、施策3として設けていた「一人ひとりを尊重し合う共生社会の推進」に、男女共同参画の取組も包含されるものとして整理しました。男女共同参画の取組は、引き続き推進していくということで、主な取組の中に表記させていただいています。

(委員)

20・21ページの「保健・医療」について、違和感があります。「健康」の定義は難しいですが、「健康」があつて「病気」があります。その間に「未病」という考え方があります。例えば、高血圧で、歳をとって血圧もまだ大丈夫だが、詳しい検査をすれば異常が出てくるという、病気が発病する前のことを「未病」という表現をすることがあります。重要なことは、早期発見、早期治療の前に「予防」です。「健康」であれば維持増進する、「未病」であれば予防していく、「病気」になれば早期発見・早期治療をするという流れを考えれば、大きく分けると、健康維持、予防、早期発見・早期治療という考え方になると思います。

施策1と施策2の棲み分けを見ていると、施策1の主な取組に、「健診」とありますが、健診は、健康の人であれば、健康の維持増進につなげる機会であつて、「未病」であれば予防につなげ、「疾患」が見つければ早期治療につなげるなど、幅広い意味があります。「検診」は、病気を特定して、あるかどうかを見ることですので、「予防」という概念も含んでいます。しかし、施策1「疾病の早期発見・早期治療」の中に入っています。

施策2「心と体の健康づくり」は、「予防」と「健康の維持増進」の内容になるかと思うのですが、めざす姿の内容は、「病気があつたり、介護状態になつたり」という表現が使われていて、

《公開用》

「健康」である状態を維持する、「未病」だったら予防するといった視点が乏しく、施策1とオーバーラップしているように思います。

(会長)

「健康」「未病」「疾患」に応じて、施策が反映されているかどうかというご指摘かと思えます。

(事務局)

確認ですが、「健康」な状態を保っていくという視点が欠けているというご意見でしょうか。

(委員)

施策2が施策1寄りになっていて、内容がオーバーラップしていることに違和感があります。

(事務局)

施策1と施策2を入れ替えて、内容を組み直した方がよろしいでしょうか。

(委員)

表現かと思えますので、「健康」の維持、「未病」であれば「予防」、「疾患」が隠れている、あるいは「疾患」になっていけば早期発見になります。「予防」も二次予防、三次予防とあります。「健康」と「未病」という時間軸の中で、施策を立てればすっきりするのではないかと思います。

(事務局)

施策2のめざす姿が、ご指摘のあったように、すでに病気であったり、介護状態の内容ではじまっていますので、「健康」の増進、「予防」の考え方をめざす姿に加え、主な取組についても検討させていただくということによろしいでしょうか。

(委員)

お願いします。

(会長)

最初に、健康づくりの記載があった方がいいかもしれません。「疾患」になれば早期発見・早期治療をするというように、もう一度ご検討いただければと思います。施策を多く増やすことは難しいと思いますので、2つの施策にうまく整理していただくことをご検討いただければと思います。

(委員)

46ページの「芸術・文化」について、芸術・文化に関わる活動をする中で、施設を借り上げることも含めて、必ず予算が必要になってきます。「地域文化資源の活用による芸術・文化の振興」とありますが、行政として支援があるべきだと感じています。三次の歴史や伝統文化を継承するにあたって、ご苦労されている方もおられますので、人々の心を潤すという視点からも、経済的支援を含めて、何らかの形で盛り込んでいただければと思います。

《公開用》

(会長)

総合計画は、施策の方向性を記載されていると思います。具体の事業や、その裏付けとなる予算等は、毎年度策定される実施計画等に掲げられると思いますので、今後そちらで議論していただけたらと思います。

(委員)

22・23ページの「福祉」分野で、「障害者」の表記があります。最近、全部漢字で書いているのはあまり見ないと思います。

(事務局)

おっしゃられるように、「害」をひらがなで表記したり、他の漢字を当てる場合もあると思います。国の法律で「害」の漢字を使っていることもあり、現在は「障害者」と表記させていただいていますが、担当部署で策定中の個別計画との整合を図り、再度整理をさせていただきます。

(委員)

23ページの「福祉」のところで、施策2「ライフステージに応じた障害福祉の推進」の中に「障害者」という記述がありますが、一口に「障害者」といっても、その特性は多岐にわたっています。めざす姿に「障害のある人やその家族が、地域でいきいきと自分らしく生きることができている環境が整っている」と書いてあるのですが、それぞれの障害の特性によって、理解の仕方、支援の仕方は違ってくると思います。これは総合計画ですので、今後、個別計画を立てられる際には、こういった障害がある場合に、どういう理解や支援が必要なのか、ある程度わかるようにしていただければと思います。

KPIに「障害者支援センターにおける支援件数」とあります。5年後、10年後に相談件数を増やしていく目標値になっていますが、これが障害者支援につながるのか疑問に思います。必要件数がどれだけあって、それに対してどのくらい支援されているのかであればわかるのですが、支援件数だけ並べても何の比較にもならないと思います。

(事務局)

障害の内容による対応については、担当部署へお伝えさせていただきます。KPIの支援件数については、もう一度検討させていただきます。

(委員)

56ページの「住民自治」分野について、施策1「共創のまちづくりの推進」とありますが、「共創」という言葉が、これまでどこにも出てこない気がします。表現を変更した方がいいのかもしれないと思ったのですが、いかがでしょうか。

(会長)

「協働・共創」という表現は12ページに出てきます。

(事務局)

「共創のまちづくりの推進」については、主な取組にもありますように、行政や住民自治組織などを含めて、いろいろな主体の方が関わり合って、みんなで一緒にまちづくりを推進していくという意味で「共創」という言葉を使っています。

《公開用》

(委員)

12ページから間があくので、違う言葉や表現を入れた方がいいのではないかと思います。

(事務局)

施策1の施策名と取組がわかりやすくなるよう、再度検討させていただきます。

(委員)

62ページに「森林環境譲与税」の記載があります。これを書き始めると全部の公共事業を書かなくてはならないと思いますのでどうかと思います。また、K P Iに農業に関連する交付金を書かれています。これを書くと全部の補助事業を書くのかという話になりかねないと思います。表現を少し柔らかくされたらと思います。

(事務局)

委員がおっしゃるように、主な取組の中に「森林環境譲与を財源とし」と表記していますが、総合計画の意味合いからして、この表現は削除させていただきたいと思います。

K P Iについて、ここで書きたいこととしましては、交付金の制度で協定を結んだ数になります。その点を踏まえて再度検討したいと思います。

(委員)

目的を書いて、協定者数を表記することでいいと思います。

(会長)

それでは、資料の第1章から第4章までを通して、お気づきの点、言い残した点等ありましたら発言をお願いします。

(委員)

53ページの「定住・交流」分野で、施策1のK P I「地域の婚活支援策でマッチングした件数」とありますが、これは市として婚活を進めるということの意味していると思います。

今、多様な生き方が認められている中で、市として婚活を進めていくということは、めざす姿の「住みたい、住み続けたい、帰ってきたい」に当てはまるのか、私にはわかりません。今の若い人たちがこれを見てもどう思うのかなと思います。

(会長)

これは必ずしも三次市だけの事業ではなかったと思います。

(事務局)

婚活の事業については、市が直接行う事業ではなく、活動されている住民団体を支援するものです。

(委員)

実際に婚活の企画を見たことがあるのですが、コロナのワクチンを受けているか受けていないかで参加できるかどうか違って、全員が見て「これいいよね」というものにはならないような気がしています。今は、結婚しても、結婚式をせず、書類上だけで済ませる方もいらっしゃり、皆さん曖昧で、それがあってという価値観でいらっしゃると思います。そのような状況の中

で、婚活を取り挙げてしまうのはよくない気がしますので、検討していただければと思います。

(委員)

地域の免許を返納された高齢者の移動手段は、タクシーやバスなどの公共交通しかありません。他の自治体の取組で、タクシーやバスだけでなく、白ナンバーも有償で移送できる制度があることをニュースで聞きました。タクシー事業者もある中で、すぐにそのような制度ができるとは思いませんが、そこに暮らしている住民の方のことを考えると、今後は、そのような検討をされるべきではないかと思います。高齢者による事故も聞きますので、他の自治体に先駆けて、簡単に免許返納をできるような仕組みを検討していただければと思います。

(委員)

これまでの会議でライドシェアの議論をしたかと思います。実施計画等の段階で、導入実験、社会実験を積極的に行っていくことは必要かと思います。国でもようやく大きな動きが出ています。Uberのシステムを経済特区に導入されていますが、様々な縛りがあり、まだまだ使い勝手が悪い一面があるようです。そういった実験を踏まえながら具体的な事業に展開していければと思います。

(委員)

婚活の話ですが、婚活事業のイベントを大きく打たれて、参加者がいないので参加するよう声がかかり、参加者が逆にプレッシャーを感じてしまうことは、本末転倒になっているように感じます。市の政策として、困っている人に支援するという意味で、結婚したい、出会いがほしいという方に手を差し伸べるという本来の婚活支援であれば、政策にあってもいいと思います。婚活支援が政策に入れるのであれば、妊活支援も謳い、本当に困っている方に支援をしてほしいと思います。

(委員)

今委員が言われたような課題があるとすれば、解決しないといけないのかなという気がします。本当に困っている方へのケアはあって然るべきだと思います。

33ページの「生活基盤」で、施策2「拠点性の維持と良好な住環境づくり」とありますが、ここは、前回の意見を踏まえて修正いただいたところかと思います。めざす姿に「都市機能が集まる中心市街地・地域の拠点性の維持」と書かれています。「地域の拠点性」とは中心市街地とは別にある地域拠点のようなものを指しているのでしょうか。

(事務局)

委員がおっしゃる通り、三次市で言えば、支所やコミュニティセンターなど、それぞれの地域の拠点という意味合いです。

(委員)

わかりやすさの観点から言うと「地域拠点の拠点性」にし、どういうものなのか明確になっている方がわかりやすいと思いました。

もう1点、主な取組に「土地利用を含めた空き家対策」とありますが、こういったものを指しているのでしょうか。

《公開用》

(事務局)

家だけでなく、農地や土地が空き家に付随している現状がありますので、「土地利用を含めた」という表現にしています。

(委員)

専門用語で言えば、低未利用土地ということになるのでしょうか。もう少しわかりやすい表現になればと思いました。

23ページの施策1のKPIに「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいる割合」とありますが、「家族・親族はいる割合」もしくは「家族・親族はいる市民の割合」というように修正していただければと思いました。

(事務局)

ご指摘の通り、修正します。

(委員)

14ページの取組の柱について、「スポーツ」分野のところだけ「“スポーツのまちみよし”」という名詞で終わっています。あとは、全て動詞で止まっているのですが、意図的に名詞止めにされているのでしょうか。

「保健・医療」分野のところは「すべて」がひらがなですが、「福祉」分野では「全て」が漢字になっています。全体を通して、確認をしていただきたいと思います。

(事務局)

「“スポーツのまち”」の表記ですが、ここはチェック漏れですので、修正させていただきます。語句の統一は、全体を通して調整します。

(委員)

27ページについて、主な取組に「平和の尊さや、恒久平和の願いを次世代に承継する取組を推進する」と書いてありますが、最近世界的に見て状況が変わってきていると思うので、もっと緊迫した状況が伝わる積極的な文章にならないかなと思います。

また、KPIの国際交流人数の現状値、中間値、目標値が、大変少ない気がします。市内の小学校、中学校、高校では国際交流活動を盛んにされていると思うので、そういう人数も入れていただく方がいいと思います。67ページの「観光」分野では、外国人観光客数の目標値を8万人に、外国人宿泊者数の目標値を1万人に設定されていますので、そういう方を迎え入れるという意味でも、国際交流人数は、もっとはるかに大きな人数であるべきだと思います。

平和祈念イベントの参加者数については、おそらく三良坂で行われている平和のつどいの参加者数だと思いますが、それ以外にも、小学校、中学校、高校での取組も含めて、平和コンサートや映画視聴会などあると思いますので、人数に含めていただければと思います。

(事務局)

国際交流人数については、定期的に進捗が把握できる数字として、市が把握している訪問や受け入れ、交流等の人数になります。平和祈念イベントの参加者数は、委員がおっしゃる通り、三良坂で行われる平和のつどいの参加者数になります。

《公開用》

(委員)

国際交流の活動は様々にあると思います。私は草の根国際交流会というグループで活動していますが、年に1回の大きなパーティーでは、毎年150人から200人くらいの方が来られていて、日本人だけでなく、いろいろな国の方も来られています。なかには、三次に住んでいる外国人の方も多くいらっしゃいますので、国際交流人数はもっと多いと思います。

(事務局)

民間団体で、様々に活動いただいていることについては承知しているのですが、すべて数値を把握できない状況があります。担当部署と協議をし、実際に交流されている人数に近づく表記ができないか検討したいと思います。緊迫した国際情勢を踏まえた記述については、検討させていただきます。

(委員)

三次も広島にある地なので「平和活動を推進していく」というような言葉を入れてもらえればと思います。

(委員)

42ページの主な取組に「学校規模適正化に取り組む」とあります。前回の会議で、この表現の中には、小規模校の存続という意味も含まれていると説明いただきましたが、やはり学校規模適正化という表現からは、小学校の存続の雰囲気伝わらないところもありますので、小人数の学校も望まれて運営していけるような形が次世代に残せるよう、表記を考えていただきたいと思います。

(会長)

個別計画との関連もあります。総合計画においては、そこまで記述できるかということはあると思いますが、事務局の方で、いかがでしょうか。

(事務局)

教育委員会で現在策定している「教育振興基本計画」との整合を図っていきたいと考えていますが、学校規模適正化という表現は、すべからく学校をなくしていくというニュアンスでなく、あくまでも学校関係者や地域との連携により、規模の適正化を図っていくことを意味していますので、この内容で記載させていただければと思います。

(委員)

60ページの「農林畜産」分野について、めざす姿に「持続可能な農林畜産業が確立されている」とあるのですが、どういう形になればこれが実現できるのでしょうか。国は「みどりの食料システム戦略」を打ち出されていて、この表現からは、三次市としてそのような方向性についていないように感じられます。

62ページのK P Iの中に、中山間地域等直接支払交付金が記載されていますが、これとは別に、環境保全型農業直接支払交付金があります。三次市内でこの交付金を活用されている方が少ないということを知っているのですが、市として政策として挙げてないから、あまり進まないのかなと感じています。

みよしアグリパーク事業もあまり進んでいないと伺っています。持続可能な農林畜産業を実現するためにも、市のビジョンをアグリパークに反映させて、地域以外の方にも見える形にできれ

《公開用》

ば、観光資源として有能になると思いますし、農業自体も変わっていく気がするので、そのような方向性を検討していただければと思います。

(事務局)

みよしアグリパーク事業については、担当部署でも検討・準備し、事業を前に進めていけるよう取り組んでいるところです。

「農林畜産」分野のめざす姿は、4つの施策を展開することで、持続可能な農林畜産業を確立するという整理にしています。

(会長)

先ほど話にありました、婚活支援についてですが、市が直接行う事業ではなく、市が民間団体の事業を支援するということですので、この程度の記述であればいいのではないかと、あるいは総合計画のKPIとしては適切ではないのではないかなど、ご意見がありましたらお願いします。

(委員)

最近はいろいろな生き方があると思いますが、三次の将来のことを考えると何か政策を打ち出さないといけないと思います。この社会状況のまま放っておくことは、行政としての責任を果たせていないと思います。出会いが中々ない時代ですので、一つの取組として、婚活を支援することは必要だと思います。

(委員)

今の若い人は結婚願望がない人が多いと思います。三次の人と結婚して、ここに住みたいと思ってもらえるという点から言えば、政策の中に入っているといいのではないかと思います。

(委員)

政策に入れるかどうかという点からすると、「婚活」という文字はいらないように感じます。出会いの場を促進するといった表現にさせていただいた方が、婚活しなければならないといったプレッシャーがなくなると思います。「地域婚活支援策でマッチングした件数」を設定されると、未婚の方々はプレッシャーを感じられるので、その点も緩和していただけるといいのではないかと感じています。

(委員)

結婚となるとタイミングや縁の問題であるので、出会って結婚までいった件数としてしまうのは、圧力がすごいのではないかと感じています。「出会いの場」とする方が、結婚まで考えていないが、出会いたい、つながりたい方が参加しやすいのではないかと感じました。

(会長)

難しい問題ですが、表現を工夫していただくか、KPIが難しければ、方向性として、「出会いの機会を支援する」程度の記述でもいいのではということかと思います。

(委員)

33ページの「生活基盤」ですが、めざす姿に「三次ならではの自然環境と調和した景観」「都市機能が集まる中心市街地・地域の拠点性の維持」と2つあります。中心市街地とは、おそらく十日市のことだと思いますが、KPIの「三次駅周辺などの中心市街地に都市的なにぎわいが

《公開用》

ある」と思う市民の割合」が、現状値15.7%、目標値25%となっています。100人中100人が「三次の中心はすごくいい都会だね」という目標にしなければいけないと思います。

中心市街地の灯りが消えているという問題があります。放っておけば、中央通り商店街の灯りも全部消えます。果たして、真っ暗なまちの中で、どうやって観光客に来てもらい、泊まってもらって、どこで飲んでもらうのでしょうか。暗いまちだと来た人がまた来たいと思うのでしょうか。明るく楽しいまちにすることが必要だと思います。

夜歩く方も多く、通勤や通学で朝早く暗い時間に駅へ向かう子どもたちの安全性も問題があります。灯りの問題は色々なことにつながると思います。田園風景と都市の景観を一緒にして、なんとなく街並みの環境維持と書かれていますが、街並みはそれぞれ違うと思います。中心部には、にぎやかなショッピングセンターがあって、人が集まる集積地があり、朝も夜も明るい、都会的な街並みを求められるのであれば、中心部の街並みを具体的にどうするのか書いておく必要があると思います。できれば、公園だけでなく灯りの問題も環境の維持・改善のところに入れていただければと思います。

(事務局)

委員がおっしゃられた都市と周辺の街並みがはっきりとわかるような記載については、担当部署と協議し、個別計画である都市計画マスタープランとも整合を図っていきたいと思います。

(会長)

12ページの図に「ウチ」と「ソト」のつながりが示されていますが、「ソト」のつながりが国内だけのような気がします。住んでいる外国人、留学生や実習生ほか、外国人観光客、海外の外国人を含めた視点を入れていただき、国内や国外のつながりの中で、強化、補完できるような図になればと思いました。

10ページの「めざすまちの姿」のキャッチフレーズについては、現状のままだとつながりがよくないため、前後を入れ替えて「人と想いがつながり、未来につなぐまち」とすればと思いますがいかがでしょうか。

(委員)

市民の皆さんが総合計画を読んだ時に、最後の細かいところまで読まれる方は中々いらっしゃらないと思います。三次がめざすものはこれだということを端的にわかりやすく伝えるところは、このキャッチフレーズだと思います。この部分を一番前面に出して、もっとわかりやすく、端的にすることで、市民の皆さんに広く伝わると思います。

(会長)

この文言を説明する際に、10ページ目の「想い」と11ページ目の「思い」が違いますので、それぞれの「おもい」を解説していただければと思いました。

第5章のデジタル田園都市構想についてですが、従来の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」をデジタル版に置き換えたということで主旨は伝わるのですが、各論としてはどうなのかと気になります。かつて、「ICT×福祉」「ICT×教育」のように、ICTを軸に今の行政をどう変えていくかという考えがありました。今回も同じように、「DX×福祉」、「DX×教育」という視点を加えていただくと、こうやって活用していくのかともう少し目に見えてわかるように思いましたので工夫していただければと思います。

(委員)

前回、6つの政策の横のつながりをしっかりとしてほしいとお伝えさせていただきました。第5章の最初の文言に「6つのまちづくりの取組の柱を横断する目標として位置付けます」とはっきりと書かれていたので、この戦略がキーになってくれるのではないかと期待をして読み進めていたのですが、中身は、それぞれの政策からそのままコピペで集めただけのように感じました。6つの政策をいかにデジタルで、戦略をもって実現させていくかというところを表現していただければと思います。「デジタル田園都市」という言葉と「三次市」はイメージ的に相性が良いと思います。デジタルを使った都会的な働き方ができたり、田園という自然を活用した田舎らしさの体験など、両方のいいところ取りができるまちになればいいと思います。大きなまちとつながる交通についても、観光という意味ではなくて、暮らしの中の交通という視点が組み込まれてほしいと思います。

(事務局)

「デジタル田園都市構想総合戦略」につきましては、現在の総合戦略と同様、基本的には総合計画の中から「まち」「ひと」「しごと」それぞれの要素を抽出した計画としています。この戦略についても、第4章で謳っている内容の中から、4つの基本目標に沿っているものを再掲しています。

(会長)

既に総合計画に記載されているものを組み替えて、「再掲」という形になっていると思います。総合戦略に記載がないと国の補助金等が受けられないということもあり得るので、第5章は国向けに再整理したものとして受け止めておく必要もあるかと思えます。

今後、計画の素案は、議会に報告し、市民の方々から幅広くご意見をいただくことになるかと思えます。今日の時点では、成案に至っておりませんので、今日の議論を踏まえて加筆、修正等していただくこととなります。その他、お気づきの点がありましたら、何日かの内にご意見をいただければ、反映されるかと思えます。

それでは最後に、事務局から今後のスケジュールをお願いします。

4 閉会

(事務局)

長時間にわたしまして、誠にありがとうございました。

今後につきまして、本日いただいたご意見を踏まえまして、計画の素案を再度整理させていただきたいと思えます。12月中旬に議会へ報告を行った後、12月下旬、1月にかけてパブリック・コメントを実施していきたいと考えています。その後、再度本審議会にて計画案をご審議いただきたいと考えています。

次回の開催は2月頃を予定しています。改めてご案内をします。

本日の会議後、お気づきの点などがありましたら、週明けの月曜日あたりまでにお知らせいただけますと幸いです。

(会長)

週明けを目途にご意見等お寄せいただければと思います。小さな気づきでも結構です。例えば「～に向けて」が、ひらがなと漢字が整理されていないということでも結構ですので、メール等でお聞かせいただければと思います。

他にご意見等がなければ終わらせていただきたいと思います。長時間ありがとうございました。